後につづく人たちのために…

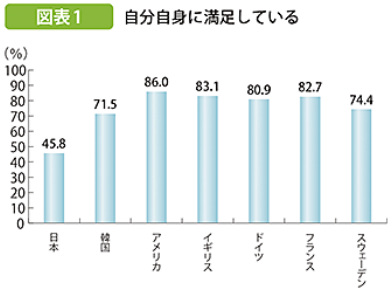
～こどもの未来を守る会（山口）のご紹介～

「自己肯定感の低い日本の若者」

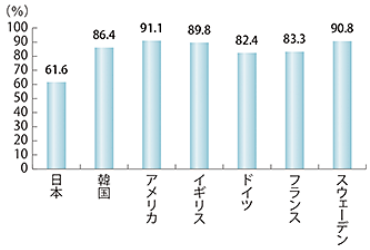
【日本の若者は自己評価が低く、将来を悲観している～】

2014年、内閣府が世界7カ国の13～29歳の男女を対象に実施した意識調査結果によると、こんな傾向が鮮明となりました。(右図参照)
その一方で、「自国の役に立ちたい」と考える若者の割合は日本がトップだという結果も出ています。

『社会貢献したいのに自信がもてない』
そんな日本の若者の姿が浮かび上がってきます。



(注)「次のことがらがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。」との問いに対し、「私は、自分自身に満足している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。



(注)「あなたは，自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し，「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の合計。

同世代の子供を持つ母親として、我が子を見ていてもそんな風に感じる時があります。そして、自分の若い頃を振り返ってみると、やはりそうだったようにも思うのです。
その理由を考えたとき、今の日本には、『根本的に』自己肯定感を育めるような教育が欠けているのではないか、という思いにいたります。

自己肯定感の大切さは、近年大きくクローズアップされるようになりました。
その背景には、うつ病に苦しむ人や、自殺者の増加も影響していると思われます。
ですが、一向に減少する傾向にはありません。なぜでしょうか。
一部の見識者の間では、『本来持っていた日本の精神性を軽んじ、欧米の物質主義、個人主義を取り入れすぎたことに原因があるのではないか』と考えられはじめています。

「来た時よりも美しく」

私達日本人にとっては耳慣れた言葉であり、みなさんも子供時代の遠足のときなどに、一度は耳にした言葉ではないでしょうか。

この言葉には、後に来る人のために、自分のしたことは自分できちんと後始末をして帰りましょう、という意味が込められています。

「自分達さえ良ければいい」という発想の方には、どうもこの言葉はピンとこないようです。ある国の人は平気で道にゴミを捨て、それを注意すると、「掃除をする人の仕事をつくってやっているんだ」と開き直ることもあるそうです。

けれど、日本は「八紘一宇」（世界を一つの家族にする）の精神をもとに、神武天皇によって建国された国であり、「大いなる調和」を重んじる国として、他国から大和（やまと）と呼ばれたという史実もあります。
前の人の善い行いに習い、周りの人を和やかな心で思いやり、後に続く人たちのことを考えて行動する。「やまとのこころ」は、そもそも、そういう精神だと言われています。
そのようなやまとこころで暮らしてきたのが、天皇陛下を始めとするやまと民族であり、 世界中の国が建国と滅亡の歴史を繰り返す中、皇紀 2676年という、世界で最も長い歴史を持つに至ったのは、やまとこころ、つまり今で言う「和の精神」によるところが大きいと思われます。

失われつつある和のこころ

ただ、戦後急速にアメリカの影響を受けたことにより、「物質的に豊かなことが良いことである」という唯物思想が日本に流れ込んできました。そのお陰で、今、豊かで安全な生活が送れているのは間違いなく、とても有難いことだと思います。

ですが、それと同時に、やまとこころを育む教育が奪われ、歴史の教科書が自国を卑下したものに塗り替えられました。それにより、自分の国を誇れない、愛せない若者が増え、「和のこころ」も徐々に失われつつあることが、昨今の風潮や、様々な調査から浮き彫りになってきています。

このままでいいのでしょうか？

私たちは、現状がこれ以上続けば、未来の日本を担う子供達の元気が、どんどんなくなっていくのではないか、と危機感を覚えています。とくに、心が元気である、ということは、物質的な豊かさとは関係がありません。むしろ、求める豊かさが物質的なものであればあるほど、それに依存した弱い心しか育たない可能性も考えられます。

子どもの元気がなくなる、ということは、国の未来が危ない、ということに繋がりかねません。今こそ本当の意味で、日本人としての誇りを取り戻し、日本人の感覚に合った豊かさや、幸せを感じられる生活を手に入れるために、心を整えていくことが必要なのではないでしょうか。

ありがたい国、日本

古来、日本にはやまとこころに基づいた素晴らしい文化と歴史があります。それらを先人達が守り続けてくれたおかげで、美しく豊かな国、日本に、今、私たちは平和に暮らすことができています。
そのことを忘れないためにも、自分の国の歴史や文化、素晴らしいところを、大人が子どもに、教師が生徒に、伝えていく必要があるのです。

両親を大切にできない人が、よい家庭を築くことが難しいように、自分の国を愛せない、または誇れない人が、立派な日本人として世界で活躍していくのは難しい、と言われます。正しい歴史を知る事は、自分たちの今の生活が、過去の先人達の智恵と努力のお陰で成り立っていることを知る事であり、それによって湧いてくる感謝の念が、自分の家族や国を大切に思う気持ちや、誇りとなり、強く生きる勇気に繋がっていくように思います。

本当に大切なことを伝えたい　～迷う子育て世代のために～

おそらく産まれた我が子を見て、一番に願う事は「健康で、幸せになってほしい」ということに尽きると思います。それが成長するにつれ、周囲の意見や社会の常識に振り回されて、何が本当に大切なことなのか迷ってしまう…そのような思いを、親なら一度は抱えた事があるのではないでしょうか。

そんな子育て世代の方の助けとなり、未来を担う子ども達の「生きる力」に繋がっていくことをしたい。利害の有る無しを考えず、それぞれの智恵と経験を持ち寄り、宗教や思想の違いなども超えて。そのような思いで作ったのが、『こどもの未来を守る会（山口）』です。

子ども達の心や身体が元気になるために、健康や食習慣、日本文化や歴史教育など、あらゆる観点から、今、出来る事を本気で考え、発信していくことを目的として、少しずつ有志が集まってくれています。これから先、こどもたちに、美しい国を残していけるかどうかは、今を生きている私たち大人にかかっています。営利目的ではないため、大きなことはできませんが、共感してくださる方は、ぜひ、今後の活動を応援、または、ご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

こどもの未来を守る会（山口）　代表　八塚　尋子